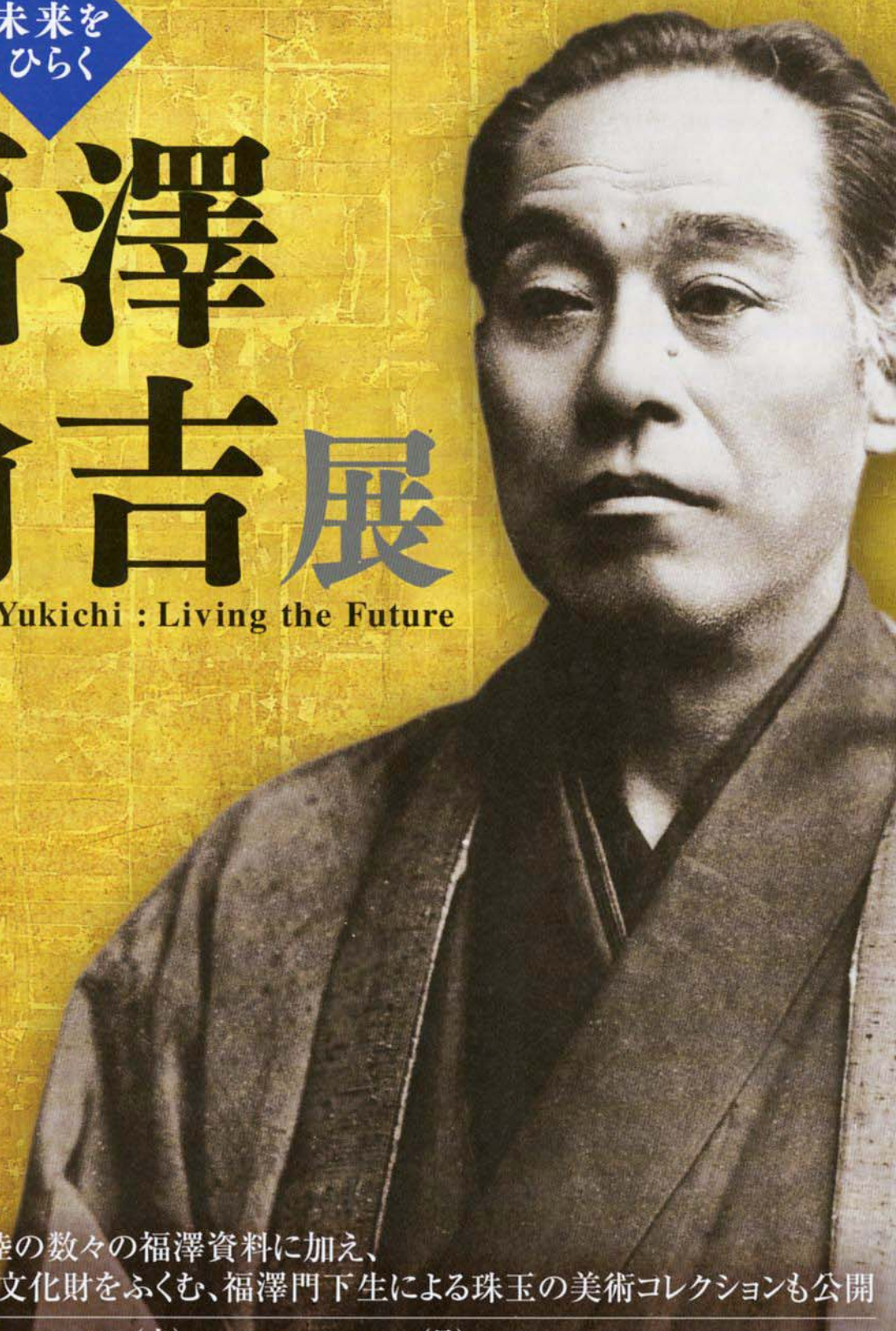


ニッポンを変えた、男。

未来を
ひらく

福澤諭吉展

FUKUZAWA Yukichi : Living the Future



九州初上陸の数々の福澤資料に加え、
国宝・重要文化財をふくむ、福澤門下生による珠玉の美術コレクションも公開

2009年 5月2日^(土) — 6月14日^(日) 開館時間：9:30 - 17:30 [入館は閉館の30分前まで]
休館日：月曜休館 [ただし5月3~6日は開館、7日(木)が休館]

■主催：未来をひらく福澤諭吉展 実行委員会 ■共催：テレビ西日本、TVQ九州放送、大分合同新聞社、TOSテレビ大分 ■後援：文化庁、九州・沖縄各県、同県教育委員会、福岡・中津各市、同市教育委員会、福岡県私学協会、(財)福澤旧邸保存会、(財)福岡文化財団、(財)福岡市文化芸術振興財団、(社)日本自動車連盟福岡支部、西日本リビング新聞社、RKB毎日放送、FBS福岡放送、FM FUKUOKA、cross fm、LOVE FM、天神エフエム、西日本文化サークル連合、西日本新聞天神文化サークル ■協賛：鹿島建設、損害保険ジャパン、大王製紙、大日本印刷、大和証券グループ、トヨタ自動車、久光製薬、九州電力、西日本シティ銀行、西日本鉄道、西部ガス、九電工、九州旅客鉄道、福岡地所、九州リースサービス、麻生専門学校グループ ■協力：日本通運 ■特別協力：福岡三田会、九州・沖縄連合三田会、北九州三田会、山口県連合三田会、韓国三田会、ソウル三田会 ■福澤諭吉写真|明治24年(1891)頃 慶應義塾蔵

福岡市美術館
Fukuoka Art Museum

未来をひらく 福澤諭吉展

FUKUZAWA Yukichi : Living the Future

福澤諭吉(1835-1901)は、幕末明治の激動の時代を、日本の近代化のために生きぬき、大きな足跡を残した、九州を代表する思想家です。福澤は、現在の大分県、中津藩の下級武士の家に生まれ、蘭学を志して長崎にわたりました。その後、大坂の適塾で研鑽を積み、1858年、23歳の若さで江戸に蘭学塾(後の慶應義塾)を開きます。その後、欧米各国を訪問した経験をもとに「西洋事情」、「文明論之概略」などを出版し、近代日本の進むべき道を提唱しました。当初、中津の人々のために書かれた「学問のすゝめ」は、公刊されるや、日本人の思想に大きな影響を与え、福澤の代表作となりました。

福澤は、当時の知識人がこぞって官職を求めたなかで、生涯、無位無冠の一市民であることを貫きました。たとえ「異端」と見られても、思ったことを堂々と述べる勇氣と気品—福澤は、そのような姿勢にこそ、文明の進歩があると信じた思想家でした。

本展覧会では、福澤諭吉の遺品、遺墨、書簡、自筆草稿、著書をととして、福澤の先導的な思想と活動を紹介します。また、電力王として名を馳せた、九州出身の松永安左エ門ら、門下の経済人が所蔵していた日本美術の代表的名品や、慶應義塾ゆかりの美術品をあわせて展示します。



1



2



3



4

異端と先導 文明の進歩は異端から生まれる

第1部から第6部では、福澤諭吉の思想と活動の輪のひろがり、数々の歴史資料に即して紹介します。第7部では福澤門下生たちが収集した美術コレクションを中心に、絵画や工芸の優品を展覧します。

【第1部 あゆみだす身体】

「身体」をすべての基本と考えた福澤。その身体観にそった日常生活を再現します。

【第2部 かたりあう人間】

「社会」は人と人の交際から生まれると考えた福澤。その提言と実践を展示します。

【第3部 ふかめゆく智徳】

「独立自尊」の個人を育てるための教育活動を、福澤自身の知の形成とともにたどります。

【第4部 きりひろく実業】

一国の独立の基礎として奨励した「実業」世界。門下生の地方での奮闘にも光をあてます。

【第5部 わかちあう公】

演説の創始、日刊新聞「時事新報」の発行など、新しいメディアをととした活動を紹介します。

【第6部 ひろげゆく世界】

海外体験やアジアへの視点など、国際社会に向けられたまなざしを検証します。

【第7部 たしかめる共感】

福澤門下生による美術コレクション

福澤に学んだ経済人が収集した美術コレクションのほか、慶應義塾ゆかりの名品を展示します。



5



6



7

1. 《独立自尊迎撃新世紀》福澤諭吉 明治34年(1901) 20世紀を迎えた朝に揮毫した書。
 2. 《(ロンドンでの)福澤諭吉》文久2年(1862) 幕府遣欧使節の一員としてロンドンを訪れた際に撮影。
 3. 重要文化財(複製)《スタンドグラス原画》和田英作、明治43年(1910)頃 慶應義塾図書館スタンドグラスの下絵。
 4. *重要文化財《地獄草紙絵巻断簡》鎌倉時代12世紀 福岡市美術館蔵 福澤を生誕地と仰いだ、電力王・松永安左エ門(耳庵)遺愛の名品。
 5. 重要文化財《嘉靖五彩魚藻文壺》中国・明代時代16世紀 福岡市美術館蔵 嘉靖五彩の典型作。松永安左エ門旧蔵。
 6. 《福澤諭吉「文明論之概略」刊本》明治8年(1875) 文明とは何かを体系的に説いた福澤の代表的著作。
 7. *《グーテンベルク印行「42行聖書」上巻》1455年頃 アジア地域で唯一慶應義塾に所蔵されている、グーテンベルク聖書。
- 所蔵表記のないものは、すべて慶應義塾蔵。*会期中展示替えを行います。

入館料/一般: 当日 1,200円、前売 1,000円、団体 900円 高校生: 当日 800円、前売 600円、団体 500円
大学生: 当日 1,000円、前売 800円、団体 700円

※中学生以下は無料、団体は20名以上。 ※シルバー手帳提示者は、前売り料金。 ※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳提示者とその介護者1名は無料。 ※本展チケットで常設展示もご覧いただけます。 ■前売券発売場所/ロウンチケット(Lコード 89973)、チケットP(コード 688-607)、セブンイレブン(商品コード 3001582)ほか主要プレイガイドで発売。

■交通案内



- (地下鉄) ・空港線 福岡空港駅から15分、博多駅から10分、天神駅から5分で大濠公園駅下車、3番出口より徒歩10分
・七隈線 天神南駅から8分、六本松駅下車、2番出口より徒歩10分
- (バス) ・博多駅から、交通センターより[系統番号13-140]で城内美術館東口下車、徒歩3分
・天神から、協和ビル前より[系統番号13-140]で城内美術館東口下車、徒歩3分、[系統番号12]で赤坂3丁目下車、徒歩5分、天神警固神社・三越前より[系統番号6-7・113-114・200-201・202-203・204-205]で赤坂3丁目下車、徒歩5分、[系統番号6-1]でNHK放送センター入口下車、徒歩3分。
- (車) ・福岡空港から30分、博多駅から20分、天神から10分
・駐車場(有料)に限りがあります。公共の交通機関をご利用ください。

福岡市美術館 展覧会ホームページ <http://www.fukuzawa2009.jp/>
美術館ホームページ <http://www.fukuoka-art-museum.jp>
〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6 TEL 092-714-6051 FAX 092-714-6145